

巻 頭 言

北海道師範塾「教師の道」塾頭 吉 田 洋 一

教師という仕事は、いう迄もありませんが、日々子ども達の成長に関わる、もったいねば、子ども達の一生に影響を及ぼす極めて重要なものです。それだけに、子ども達や保護者の教師に対する期待は非常に大きなものがあります。

しかし残念ながら、子ども達に基礎基本の学力が十分に身に付いていない、運動能力も低いといった現状を見るにつけ、北海道の教育は、子ども達や保護者など道民の皆さんの期待に十分応えているとはいいい難いといわざるを得ません。

その要因には、学校における教育活動だけではなく、北海道の経済的な問題や地域性など様々な事が考えられます。しかし、学校現場に目をやれば、自己研鑽に励み、子ども達の心を奮い立たせるような教育実践している教師ばかりとはいえない現実があります。

北海道師範塾は、設立以来2年目に入りましたが、この間、「学び続ける教師だけが、教壇に立つことを許される」「成長し続ける教師だけが、子どもを成長させることができる」という思いを共有しながら活動を展開して来ました。

中でも大事な事は、共に学び、共に成長していこうという気持ちだと思います。他者から学ぶという意識がなければ、如何に自己研鑽に励んでも、それは独善に陥る危険性があります。

北海道師範塾ではこれまで定期講座を開催し、様々な方々からお話を聞く機会を作って来ました。しかし、教師一人ひとりの実践力を向上させるには、それだけでは十分とはいえません。この為、今般、教育に係る実践や理論などを相互に交流し、研鑽を深めることを目的として、研究紀要「北の教師道」をまとめることにいたしました。

今回の創刊号は、師範塾の仲間たちが、日々の教育実践を通じて作り上げてきたものをそれぞれ取りまとめたものであり、その内容は、国語の表現力や特別支援教育の技能、キャリア教育や歴史教育などなど多岐にわたっていますので、ご一読いただければ幸いです。

研究紀要の公開によって様々な方々から評価を受けることとなりますが、私たちは「研鑽を重ねる者のみが、教師としての価値ある道を歩むことができる」と確信しており、原稿をまとめてくれた仲間の皆さんの勇気と努力に敬意と感謝を申し上げたいと思います

今回の研究紀要が、実践力ある教師を目指す方々にとって少しでも参考になるなら、これに過ぎた喜びはありません。